

平成27年度入学生対象

別記様式1

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔教育学部第一類（学校教育系）初等教育教員養成コース〕

プログラムの名称（和文） （英文）	初等教育教員養成プログラム Program in Elementary School Teacher Education
1. 取得できる学位 本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにおいて実施される授業科目を選択履修することによって修得する 130 単位を条件としている。その内訳は、教養教育 31 単位、専門基礎科目 62 単位（うち教育実習 8 単位）、専門科目 31 単位、卒業研究（論文）6 単位である。	
2. 概要 初等教育教員養成プログラムでは、小学校教員を養成する。 本プログラムは、小学校教員に等しく求められる資質や能力の育成に加えて、教科の教育にかかわる目標・内容・方法・評価等について探求し、教科指導の専門的力量的形成を図るとともに、特別活動や学級指導、生徒指導において指導的役割が發揮できる専門性を有する小学校教員の養成を目的とする。 本プログラムは、初等教育教員養成プログラムであるが、教育学部の他のプログラム等を履修することによって、中学校教諭一種免許（各教科）および幼稚園教諭免許が取得できるように配慮する。さらに、学生の努力次第では、高等学校教諭一種免許（各教科）の取得も可能である。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 初等教育教員養成プログラムでは、小学校教員として必要な次の能力の達成をめざします。 1) 初等教育に関連した基礎的・基本的な認識を形成するとともに、多角的な視野で教育研究を進めていくことができる。 2) 初等教育にかかわる諸課題に関する認識を形成するとともに、それらの課題の克服に向けて取り組んでいくことができる。 3) 優れた小学校教員として総合的に実践することができる。 本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤として位置づけられ、教育学や心理学だけでなく、人文科学、社会科学、自然科学に関する基礎的・基本的な知識・理解を習得するとともに、外国語の能力を向上させ、現代の社会や教育の要請に応える総合的な資質と能力を養います。	
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 初等教育教員養成コースのプログラムは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針の下に教育課程を編成、実践します。 本プログラムは、教養教育の他に、1) 専門基礎科目と 2) 専門科目から成り、さらに 3) 教育実習と 4) 卒業研究の履修を通して、目的を達成する構造になっています。 (1) 専門基礎科目は、教科以外の学校全体や子どもに関する基礎（教職教養）及び教科に関する基礎の必修科目もしくは選択必修科目です。 教職教養では、第 1 ステップ（1・2 セメ）は基礎的理解を目指した「教職入門」等、第 2 ステップ（3・4 セメ）では、基礎的知識・態度を身に付ける「教育の思想と原理」「教育と社会・制度」「児童・青年	

期発達論」等を履修します。第3ステップ（5・6セメ）では、実践的知識・態度・技能を身に付ける、「教育方法・技術論」「道德教育指導法」「教育相談」等を履修します。

教科に関しては、第1ステップから第2ステップで小学校の各教科の内容に関する基礎的知識を習得し、第2ステップから第3ステップで小学校の各教科の学習指導法を学び、それを通して実践的知識・態度・技能を身に付けていきます。

(2) 専門科目は、各ステップの目標に適切な授業科目を配当しています。学生はそれぞれの興味・関心や必要に応じて選択履修することができます。

(3) 教育実習は、上記の授業科目の他に、第1ステップから、各学年で教師としての能力を身につけるための実習科目が配置されています。また、第3ステップ（6セメ）では、本プログラムで身につけた知識・態度・技能を踏まえて実際に小学校で実践経験をつむ教育実習を履修します。

(4) 以上の授業科目の履修を踏まえて、本プログラムの到達点に位置づけるのが、第4ステップ（7・8セメ）の「卒業研究」と「教職実践演習」です。

5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

6. 取得可能な資格

卒業と同時に小学校教諭一種免許を取得できる。また、教育学部の他のプログラム等を履修することによって、中学校教諭一種免許（各教科）、幼稚園教諭免許、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。さらに、学生の努力次第では高等学校教諭一種免許（各教科）の取得も可能である。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

(1) 到達度チェックの仕組み（科目群としての到達度チェックの仕組み、GPAや学年末総合試験等）

○個人成績

1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。

2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPAとして累積する。

3) 学年ごとにGPAを算出し、各学生の基本成績レベルが確認できるようにする。

4) 各学年で、評価項目ごとに到達度を確定し、各学生の達成水準を明示する。ただし、多人数授業においては評価項目ごとの到達度チェックをしない場合もある。

○成績評価

1) 2年次末に所定の授業科目を必要単位数取得していない場合には、3年次後期（9月～10月前半）の小学校教育実習を受講することができない。

2) 小学校教育実習の受講資格を得られなかった学生は、所定の授業科目を必要単位数取得すれば、翌年に受講することができる。

3) 4年次では、それまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの到達度に加えて、卒業研究の成績を踏まえて、本プログラムにおける総合的な成績評価が提示される。

(2) 成績が示す意味（到達目標に対してどこまでできたか等）

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80～89点)	3
B (良: 70～79点)	2
C (可: 60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

※別紙6のプログラムの教育/学習方法を参照すること。

(3) 学習支援体制

○教員による支援

- 1) チューター制度: 1年次から2年次までは、学年チューターが指導する。
- 2) 卒業研究: 3年次から4年次までは、卒業研究(予定)指導教員が指導する。
- 3) プログラム教員会: 主として、学習開発学講座と初等カリキュラム開発講座の教員が構成し、学生の学習支援体制をつくる。
- 4) 講座支援室: 学習開発学講座と初等カリキュラム開発講座が、本プログラムにおける教育の支援に当たる。(連絡窓口は、学習開発学講座事務補佐員(教育学部C棟7階723教室)と初等カリキュラム開発講座事務補佐員(教育学部L棟2階210教室)である。)
- 5) 講座資料室: 学習開発学講座と初等カリキュラム開発講座が所蔵する図書、資料、IT機器を活用し、学習を支援する。(連絡窓口は、4)と同様である。)

9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ、配属方法、時期等)

2年次前期末頃までに、卒業研究に向けてのガイダンスを行う。2年次後期末までに卒業研究指導教員を決め(ゼミ分け)、初等カリキュラム専修と学習開発実践専修のいずれかに所属するか、第二～五類の各コースが提供する卒業研究を選択する。

初等カリキュラム専修もしくは学習開発実践専修に所属した場合には、卒業研究に向けてのゼミに当たる「初等教科研究法Ⅰ」「同Ⅱ」もしくは「学習開発研究法Ⅰ」「同Ⅱ」を3年次の前期および後期に履修し、卒業研究指導教員の指導を受ける。それらを踏まえて、4年次に卒業研究に本格的に取り組む。

10. 責任体制

- (1) PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価検討(check)・対処(action)の各責任者)

本プログラムは、主として教育学部初等教育教員養成コースを担当する学習開発学講座と初等カリキュラム開発講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者(初等教育教員養成コ

ース主任)にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。尚、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して4年が経過した年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率(卒業要件の充足と小学校教員一種免許状取得資格の充足)による評価、及び、本プログラムを実施した教員グループによる総合的な評価によって行われる。単位充足率とともに、教員の総合的評価にもとづいて、本プログラムの到達水準まで各学生が到達したかどうか、学生全体ではどのような割合で到達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の中で就職を希望する学生のうち、就職を希望する学生の割合、および卒業後に教職についた学生の割合による評価として実施される。また、本プログラムを学習した学生が、卒業後、いつ、どの時点で正規の教員として採用されたのかを数年おきに調べ、本プログラムの達成度を評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

初等教育教員養成プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果			評価基準		
評価項目			極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1)	1) 小学校と初等教育の意義に関する基本的理解ができている	小学校と初等教育の意義に関する基本的理解をもっており、それらの理解にもとづいて小学校と初等教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	小学校と初等教育の意義に関する基本的理解をもっており、それらの理解にもとづいて小学校と初等教育の問題点を指摘することができる。	小学校と初等教育の意義に関する基本的理解ができている。
	(2)	2) 児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基本的理解ができている	児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基本的理解をもっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基本的理解をもっており、それらの理解にもとづいて児童・青年期の教育の問題点と課題を指摘することができる。	児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基礎的理解ができている。
	(3)	3) 小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている	小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。
	(4)	4) 小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている	小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。
	(5)	5) 小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている	小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識が身に付いている。
能力・技能	(1)	1) 初等教育に関する情報を収集し、批判的に分析・検討することができる(情報収集分析力)	初等教育に関する情報を収集し、人間・社会についての包括的理解から批判的総合的に分析・検討することができる。	初等教育に関する情報を収集し、批判的総合的に分析・検討することができる。	初等教育に関する情報を収集し、批判的に分析・検討することができる。
	(2)	2) 小学校におけるカリキュラムや授業実践について、批判的に分析し、検討することができる(授業実践分析力)	小学校におけるカリキュラムや授業実践について、人間・社会についての包括的理解から批判的総合的に分析し、検討することができる。	小学校におけるカリキュラムや授業実践について、批判的総合的に分析し、検討することができる。	小学校におけるカリキュラムや授業実践について、批判的に分析し、検討することができる。
	(3)	3) 小学校における学級指導や生徒指導について、批判的に分析し、検討することができる(生徒指導分析力)	小学校における学級指導や生徒指導について、人間・社会についての包括的理解から批判的総合的に分析し、検討することができる。	小学校における学級指導や生徒指導について、批判的総合的に分析し、検討することができる。	小学校における学級指導や生徒指導について、批判的に分析し、検討することができる。
	(4)	4) 小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を構想し、立案することができる(実践的単元構想力)	小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を適切に構想し、カリキュラムとの関連のうえで具体的に立案することができる。	小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を構想し、具体的に立案することができる。	小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を構想し、立案することができる。
	(5)	5) 児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、展開することができる(実践的学習指導力)	児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を適切に設計し、具体的に展開し、適宜修正することができる。	児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、具体的に展開することができる。	児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、展開することができる。
	(6)	6) 児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を探求することができる(実践的生徒指導力)	児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を、学習活動全体と関連づけつつ総合的に探求することができる。	児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を総合的に探求することができる。	児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を探求することができる。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
総合的な力	(1)	1) 教育に対する使命感・責任感, 社会性・人間関係能力, 児童理解・学級経営, 教科の指導等について自らの資質や課題を確認し, 必要に応じて補充・深化することができる(総合的教育実践力)	教育に対する使命感・責任感, 社会性・人間関係能力, 児童理解・学級経営, 教科の指導等について自らの資質や課題を確認し, 概ね補充・深化をすることができる。	教育に対する使命感・責任感, 社会性・人間関係能力, 児童理解・学級経営, 教科の指導等について自らの資質や課題を確認し, ある程度の補充・深化をすることができる。
	(2)	2) 個人あるいはグループにおいて, 教育研究活動を企画・立案し, 効果的に実践し, その意義を明確にすることができる(研究力)	個人あるいはグループにおいて, 教育研究活動を適切に企画・立案し, 効果的に実践し, その意義を明確にし, 発展的課題とそれ解決策を探究することができる。	個人あるいはグループにおいて, 教育研究活動を企画・立案し, 効果的に実践し, その意義を明確にすることができる。
	(3)	3) 調査研究や教育実践研究の発表場面において, 自らの発表内容を適切に整理した上で, その成果と主張と課題点を明確に伝えるとともに, 相互のコミュニケーションを確保して, 建設的に批判し合うことができる(プレゼンテーション力, コミュニケーション力)	調査研究や教育実践研究の発表場面において, 自らの発表内容を適切に整理した上で, その成果と主張と課題点を明確に伝えるとともに, 相互のコミュニケーションを確保して, 建設的に批判し合うことができる。	調査研究や教育実践研究の発表場面において, 自らの発表内容を整理した上で, その成果と主張を明確に伝えるとともに, 相互のコミュニケーションを確保して, 建設的に批判し合うことができる。
	(4)	4) コンピュータなどITを用いて, 基礎的な統計処理や数値表現ができる(IT活用力)	コンピュータなどITを十分に用いて, 基礎的な統計処理や数値表現, そしてそれらの解釈や, その技能を用いるべき状況判断を, 的確に行える。	コンピュータなどITを用いて, 基礎的な統計処理や数値表現ができる。
	(5)	5) 多くの人々と協同して初等教育が直面している課題に取り組み, グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮し, よりよい方向性に向けて改善していこうとする態度や資質を備えている(社会性, 協同性)	多くの人々と協同して初等教育が直面している課題に積極的取り組み, グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮し, よりよい方向性に向けて批判的に改善していこうとする態度や資質を備えている。	多くの人々と協同して初等教育が直面している課題に取り組み, グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮し, よりよい方向性に向けて改善していこうとする態度や資質を備えている。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

初等教育教員養成プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、もののことの本質と背景を広い視野から洞察することのできる視座の確立、国際感覚と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、学際的・総合的研究を開拓し推進する能力の基礎を養成します。

--	--	--

[illegible]

[illegible]

別紙4 初等教育教員養成プログラム カリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1)小学校と初等教育の意義に関する基本的理解	日本国憲法(領◎)	日本国憲法(領◎)	領域科目(領○)	領域科目(領○)		幼児教育論(△)	幼児教育方法論(△)	
		領域科目(領○)	領域科目(領○)	教育の思想と原理(◎)	教育と社会・制度(◎)				
		健康スポーツ科目(健○)	健康スポーツ科目(健○)	初等教育カリキュラム開発論(△)					
			教職入門(◎)						
			学校教育基礎論(△)						
	2)児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基本的理解	健康スポーツ科目(健○)	健康スポーツ科目(健○)	児童・青年期発達論(◎)		重複障害教育総論(△)			
				LD等教育総論(△)		特別支援教育(△)			
				学習開発学入門Ⅰ(△)		幼児心理学(△)			
						言語障害教育総論(△)			
	3)小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識	パッケージ別科目(パ○)	パッケージ別科目(パ○)	初等国語(◎)	教育課程論(◎)	初等社会科教育法(◎)	総合的な学習構成論(◎)		
		初等社会(○)	算数(◎)	生活(○)	初等国語科教育法(◎)	算数科教育法(◎)			
		初等理科(○)	初等家庭(○)	初等体育(○)	初等理科教育法(◎)	初等音楽科教育法(◎)			
					生活科教育法(◎)	図画工作科教育法(◎)			
					初等音楽(○)	初等体育科教育法(◎)			
					図画工作(○)	初等家庭科教育法(◎)			
	4)小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識	野外活動実践(△)		特別活動指導法(◎)					
	5)小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識					生徒・進路指導論(◎)			
能力・技能	1)初等教育に関する情報を収集し、批判的に分析・検討することができる(情報収集分析力)。	教養ゼミ(教◎)	平和科目(平○)	コミュニケーションⅢA(外○)	コミュニケーションⅢA(外○)	音楽科学習材講義(△)	国語科学習材講義(△)	算数科学習材講義(△)	
		平和科目(○)	コミュニケーションⅡA(外○)	コミュニケーションⅢB(外○)	コミュニケーションⅢB(外○)	家庭科学習材講義(△)	社会科学習材講義(△)	図画工作科学習材講義(△)	
		コミュニケーションⅠA(外○)	コミュニケーションⅡB(外○)	コミュニケーションⅢC(外○)	コミュニケーションⅢC(外○)	学習開発研究法Ⅰ(△)	生活科学習材講義(△)		
		コミュニケーションⅠB(外○)	ベーシック外国語Ⅱ(外○)		学校教育思想史(△)	初等教科研究法Ⅰ(△)	学習開発研究法Ⅱ(△)		
		ベーシック外国語Ⅰ(外○)			学習開発学入門Ⅱ(△)		初等教科研究法Ⅱ(△)		
					理科学習材講義(△)				
					体育科学習材講義(△)				
	2)小学校におけるカリキュラムや授業実践について、批判的に分析し、検討することができる(授業実践分析力)。	教養ゼミ(教◎)	平和科目(平○)			教育方法・技術論(◎)			
		平和科目(平○)				学習指導論(△)			
	3)小学校における学級指導や生徒指導について、批判的に分析し、検討することができる(生徒指導分析力)。	教養ゼミ(教◎)	平和科目(平○)						
		平和科目(平○)							

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
能力・技能	4)小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を構想し、立案することができる(実践的単元構想力)。			初等国語科学習指導論(△)	初等社会科学習指導論(△)	初等理科学習指導論(△)	算数科学習指導論(△)	小学校外国語(英語)活動学習指導論(△)	
					初等音楽科学習指導論(△)		生活科学習指導論(△)		
					初等体育科学習指導論(△)		図画工作科学習指導論(△)		
					初等家庭科学習指導論(△)				
	5)児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、展開することができる(実践的学習指導力)。		野外教育実践(△)	図画工作科授業研究(△)	小学校外国語(英語)活動実践演習(△)	道徳教育指導法(◎)	初等家庭科授業研究(△)	算数科授業研究(△)	
						初等国語科授業研究(△)	初等社会科授業研究(△)	生活科授業研究(△)	
総合的な能力							初等音楽科授業研究(△)	初等体育科授業研究(△)	
								初等理科授業研究(△)	
	6)児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を探求することができる(実践的生徒指導力)。			子どもの心と学び支援実習Ⅰ(△)	子どもの心と学び支援実習Ⅰ(△)	教育相談(◎)	子どもの心と学び支援実習Ⅱ(△)	学校制度・経営論(△)	子どもの心と学び支援実習Ⅲ(△)
						子どもの心と学び支援実習Ⅱ(△)		子どもの心と学び支援実習Ⅲ(△)	
総合的な能力	1)教育に対する使命感・責任感、社会性・人間関係能力、児童理解・学級経営、教科の指導等について自らの資質や課題を確認し、必要に応じて補充・深化することができる(総合的教育実践力)								教職実践演習(◎)
	2)個人あるいはグループにおいて、教育研究活動を企画・立案し、効果的に実践し、その意義を明確にすることができる(研究力)						教育評価論(△)		卒業論文(◎)
	3)調査研究は教育実践研究の発表場面において、自らの発表内容を整理した上で、その成果と主張を明確に伝え、ともに、相互のコミュニケーションを確保して、建設的に批判し合うことができる(プレゼンテーション力、コミュニケーション力)	教養ゼミ(教◎)	平和科目(平○)	コミュニケーションⅢA(外○)	コミュニケーションⅢA(外○)				卒業論文(◎)
		平和科目(平○)	コミュニケーションⅡA(外○)	コミュニケーションⅢB(外○)	コミュニケーションⅢB(外○)				
		コミュニケーションⅠA(外○)	コミュニケーションⅡB(外○)	コミュニケーションⅢC(外○)	コミュニケーションⅢC(外○)				
		コミュニケーションⅠB(外○)	ベーシック外国語Ⅱ(外○)						
		ベーシック外国語Ⅰ(外○)							
	4)コンピュータなどITを用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる(IT活用力)。	情報活用基礎(情◎)				教育方法・技術論(◎)			
	5)協同して初等教育が直面している課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよい方向性に向けて改善しようとする態度や資質を備えている(社会性、協同性)。	地域教育実践Ⅰ(△)	地域教育実践Ⅱ(△)					学校制度・経営論(△)	

教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

初等教育教員養成プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
未定	未定	未定	教育学部 未定	未定
井 上 弥	教授	7192	教育学部 C棟817	winoue@hiroshima-u.ac.jp
鈴木由美子	教授	7187	教育学部 C棟406	pesfre@hiroshima-u.ac.jp
林 孝	教授	7183	教育学部 C棟710	tahayas@hiroshima-u.ac.jp
樋口 聡	教授	6847	教育学部 C棟714	higuchis@hiroshima-u.ac.jp
児玉真樹子	准教授	7191	教育学部 C棟816	mkodama@hiroshima-u.ac.jp
山内規嗣	准教授	7186	教育学部 C棟713	nyamauc@hiroshima-u.ac.jp
米沢 崇	講師	7197	教育学部 C棟815	yonezawa@hiroshima-u.ac.jp
未定	未定	未定	教育学部 未定	未定
岡 直 樹	教授	7198	教育学部 L棟308	okanao@hiroshima-u.ac.jp
栗原慎二	教授	7196	教育学部 L棟305	skuri@hiroshima-u.ac.jp
未定	未定	未定	教育学部 未定	未定
朝倉 淳	教授	7130	教育学部 C棟505	aasakura@hiroshima-u.ac.jp
伊藤圭子	教授	7166	教育学部 C棟315	kitou@hiroshima-u.ac.jp
植田敦三	教授	7077	教育学部 C棟801	aeda@hiroshima-u.ac.jp
木原成一郎	教授	7154	教育学部 C棟506	kiharas@hiroshima-u.ac.jp
木村博一	教授	7073	教育学部 C棟519	hkimura@hiroshima-u.ac.jp
権藤敦子	教授	7137	教育学部 G棟204	gondoat@hiroshima-u.ac.jp

柴 一 実	教授	7127	教育学部 C棟 205	kashiba@hiroshima-u.ac.jp
難 波 博 孝	教授	6785	教育学部 C棟 612	hnanba@hiroshima-u.ac.jp
望 月 て る 代	教授	7170	教育学部 C棟 407	tmochiz@hiroshima-u.ac.jp
山 崎 敬 人	教授	7128	教育学部 C棟 207	tyamasa@hiroshima-u.ac.jp
池 田 吏 志	准教授	7096	教育学部 C棟 217	ikedas@hiroshima-u.ac.jp
大後戸 一樹	准教授	7152	教育学部 C棟 504	kazukio@hiroshima-u.ac.jp
寺 内 大 輔	准教授	7146	教育学部 G棟 203	terauchi@hiroshima-u.ac.jp
中 村 和 世	准教授	7136	教育学部 C棟 411	knakamur@hiroshima-u.ac.jp
永 田 忠 道	准教授	7070	教育学部 C棟 516	tnagata@hiroshima-u.ac.jp
松 浦 武 人	准教授	7167	教育学部 C棟 404	tmatsuura@hiroshima-u.ac.jp
松 本 仁 志	准教授	7050	教育学部 C棟 606	hmatumo@hiroshima-u.ac.jp
松 宮 奈賀子	講師	4536	教育学部 C棟 314	nmatsumiya@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

身につく知識・技能・態度等 1) 小学校と初等教育の意義に関する基本的理解 2) 児童・青年期の子どもの成長と発達および学習に関する基本的理解 3) 小学校における教科指導および教科横断的な学習指導の理論と方法に関する基本的な知識 4) 小学校における特別活動の理論と方法に関する基本的な知識 5) 小学校における学級指導や生徒指導の理論と方法に関する基本的な知識	教育・学習の方法 初等教育における基礎的・基本的な知識・理解（１～５）は、初等教育教員養成プログラムの専門基礎科目と専門科目における講義、実習・演習、および、各授業科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通じて獲得できるようにする。 評価 知識・理解（１～５）は、各授業科目において行う中間試験や期末試験、課題やレポートを通して評価する。
--	--

○ 知的能力・技能

身につく知識・技能・態度等 1) 初等教育に関する情報を収集し、批判的に分析・検討することができる（情報収集分析力）。 2) 小学校におけるカリキュラムや授業実践について、批判的に分析し、検討することができる（授業実践分析力）。 3) 小学校における学級指導や生徒指導について、批判的に分析し、検討することができる（生徒指導分析力）。	教育・学習の方法 知的能力・技能（１～３）は、プログラムの各授業科目における講義、実習・演習を通じて、基礎的・基本的なものを獲得するとともに、共同で行うグループ討議や研究、および、ケーススタディやフィールドワークなどを通じて実用的実的なものを学習し、卒業論文の作成を通してより上位のものへと発展させる。 評価 知的能力・技能（１～３）は、実習・演習その他のフィールドワーク、資料研究などにおけるグループ学習、討議、研究、課題やレポートを通して評価する。卒業論文の作成は、これらの能力・技能を学生自身が到達したのかを確認し、より上位の能力・技能へ発展させるための機会にする。
---	---

○ 実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
1) 小学校のカリキュラムや単元学習指導計画を構想し、立案することができる（実践的単元構想力）。 2) 児童の実態を踏まえて、小学校における学習指導案を設計し、展開することができる（実践的学習指導力）。 3) 児童の実態を踏まえて、小学校における学級指導や生徒指導のあり方を探求することができる（実践的生徒指導力）。	実践的能力・技能（１～３）は、演習・実習、フィールドワーク、ケーススタディなどにおける、カリキュラム作成、教材開発、指導案作成、小研究（レポート・課題研究）などの実際的な課題遂行作業を通して身に付ける。さらに、卒業論文作成において、より上位のものに発展させるとともに、実際的実用的に使用・発揮できるようにする。 評価 実践的能力・技能（１～３）は、特定課題の遂行の過程、およびその結果で評価する。卒業論文の作成過程、およびその成果によって、学生自身がどのレベルまで到達したのかを確認できるようにする。

○ 総合的能力・技能

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
1) 教育に対する使命感・責任感，社会性・人間関係能力，児童理解・学級経営，教科の指導等について自らの資質や課題を確認し，必要に応じて補充・深化することができる（総合的教育実践力） 2) 個人あるいはグループにおいて、教育研究活動を企画・立案し、効果的に実践し、その意義を明確にすることができる（研究力）。 3) 調査研究は教育実践研究の発表場面において、自らの発表内容を整理した上で、その成果と主張を明確に伝えとともに、相互のコミュニケーションを確保して、建設的に批判し合うことができる（プレゼンテーション力、コミュニケーション力）。 4) コンピュータなど IT を用いて、基礎的な統計処理や数値表現ができる（IT 活用力）。 5) 多くの人々と協同して初等教育が直面している課題に取り組み、グループやチームの一員として自らの力を十分に発揮し、よりよい方向性に向けて改善していこうとする態度や資質を備えている（社会性、協同性）。	総合的能力・技能（１～５）は、プログラム全体を通じて習得させるが、教養的科目の教養ゼミ、情報活用演習、初等教員養成プログラムの教職実践演習などを通じて重点的に身に付け、個別の演習・実習、フィールドワーク、ケーススタディなどを通じてより上位のものに発展させ、卒業論文作成の過程で実際的実用的に発揮できるようにする。 評価 総合的能力・技能（１～５）は、プログラム全体において総合的に評価する。とりわけ、卒業論文作成とその結果において、学生自身がどのレベルまで達成したのかを確認できるようにする。

別表第1（第7条第2項関係）

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第一類 初等教育教員養成コース（初等教育教員養成プログラム）

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)									
							1年次		2年次		3年次		4年次			
							1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○								
		平和科目		2		2	選択必修	○	○							
		パッケージ別科目		6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○							
	外国語科目	英語(注2)	0	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	/										
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1											
			4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○									
				コミュニケーションⅠB	1		○									
			コミュニケーションⅡ(注3)	コミュニケーションⅡA	1			○								
				コミュニケーションⅡB	1			○								
			上記4科目から2科目以上													
			2	コミュニケーションⅢA	1		選択必修									
				コミュニケーションⅢB	1					○	○					
				コミュニケーションⅢC	1											
				上記3科目から2科目												
			4	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	選択必修	○									
		ベーシック外国語Ⅱから2科目		1			○									
		情報科目		2	情報活用基礎	2	必修	○								
		領域科目		2	日本国憲法	2	必修	○	○							
				(5)	すべての領域から(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○					
		健康スポーツ科目		2		1又は2	選択必修	○	○							
		基盤科目		(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○					
		計		31												

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：・領域科目は、可能な限り専門分野以外の分野から履修すること。
・修得した基盤科目の単位を算入することができる。

別表第2（第7条第3項関係）

学部履修基準

第一類（学校教育系）

○ 初等教育教員養成コース（初等教育教員養成プログラム）

科 目 区 分 等				要 修 得 単 位 数	開 設 学 部	
教 養 教 育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ		2	3 1	総 合 科 学 部 ほ か
		平 和 科 目		2		
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目		6		
	共通科目	外国語科目	英 語	6		
			初修外国語	4		
		情 報 科 目		2		
		領 域 科 目		(7)		
	健 康 ス ポ ー ツ 科 目		2			
基 盤 科 目			(0)			
専 門 教 育	専門基礎科目		教 職 専 門 科 目	5 0	9 9	教 育 学 部
			教 科 専 門 科 目	1 2		
	専 門 科 目	教科又は教職科目		3 1		
	卒 業 研 究			6		
合						

専門教育科目履修基準

第一類 初等教育教員養成コース（初等教育教員養成プログラム）

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数		開 設
教 職 専 門 科 目	教職入門	2	50	初等教育教員養成コース
	教育の思想と原理	2		
	教育課程論	2		
	教育と社会・制度	2		
	特別活動指導法	2		
	教育方法・技術論	2		
	道德教育指導法	2		
	児童・青年期発達論	2		
	生徒・進路指導論	2		
	教育相談	2		
	総合的な学習構成論	2		
	初等国語科教育法	2		
	初等社会科教育法	2		
	算数科教育法	2		
	初等理科教育法	2		
	生活科教育法	2		
	初等音楽科教育法	2		
	図画工作科教育法	2		
	初等体育科教育法	2		
	初等家庭科教育法	2		
	教育実習	8		
	教職実践演習（幼・小）	2		
教 科 専 門 科 目	初等国語	2	12	初等教育教員養成コース
	算数	2		
	初等社会	2		
	初等理科	2		
	生活	2		
	初等家庭	2		
	初等音楽	2		
	図画工作	2		
	初等体育	2		
教 科 又 は 教 職 科 目	介護等体験事前指導	1	31	初等教育教員養成コース
	教職選択科目	14～20		第一類～第五類
	教科選択科目	10～16		特別科目（特定プログラムを含めない。）
卒 業 研 究		6		初等教育教員養成コースほか

<履修上の注意>

- 『教科専門科目』欄の「初等社会」「初等理科」「生活」「初等家庭」「初等音楽」「図画工作」「初等体育」は、「初等社会」「初等理科」「生活」「初等家庭」から2科目4単位、「初等音楽」「図画工作」「初等体育」から2科目4単位を修得すること。なお、所定の単位を超えて修得した単位は、『教科又は教職科目』欄の「教科選択科目」の単位に含むことができる。
- 『教科又は教職科目』欄の「教職選択科目」の14～20単位は、第一類～第五類及び特別科目で開設されている教職に関する専門科目の中から選択することができる。また、『教科又は教職科目』欄の「教科選択科目」の10～16単位は、第一類～第五類で開設されている教科に関する専門科目の中から選択することができる。
なお、「免許法該当科目」以外の科目も上記の単位数に含むことができる。また、教育職員免許法上で「教科又は教職に関する科目」に区分されている科目については、科目の内容によって、「教職選択科目」「教科選択科目」のいずれかの単位数に含むことができる。
- 教職実践演習（幼・小）（8セメスター）を履修するためには、原則として7セメスター終了時点で小学校教育実習Ⅰの単位を修得していること。ただし、教職実践演習を受講するセメスターまでに、教育実習の単位を修得できない場合は、同セメスターで教育実習の単位を修得見込みであることを条件に、履修を認める。
- 『卒業研究』は、初等カリキュラム専修を専攻する者は「初等教科研究法Ⅰ・Ⅱ」の2単位と「卒業論文」4単位、学習開発実践専修を専攻する者は「学習開発研究法Ⅰ・Ⅱ」の2単位と「卒業論文」4単位を履修すること。
なお、『卒業研究』6単位は、同一類内の他専修又は第二類～第五類の他コースで開設されている『卒業研究』6単位で代えることができる。ただし、その場合は他の専修又はコースの指定に従って履修しなければならない。

第一類 初等教育教員養成コース（初等教育教員養成プログラム）

教職専門科目

○印は必修

区分	授 業 科 目	開 単 位 設 数	学 期 別 週 授 業 時 数								免 許 法 該 当 科 目	備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
教 育 学 及 び 心 理 学	教職入門	②		2							教職の意義及び教員の役割，教員の職務内容， 進路選択に資する各種の機会の提供等	
	教育の思想と原理	②			2						教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	教育課程論	②				2					教育課程の意義及び編成の方法	
	教育と社会・制度	②				2					教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	
	特別活動指導法	②			2						特別活動の指導法	
	教育方法・技術論	②					2				教育の方法及び技術	
	道德教育指導法	②					2				道德の指導法	
	児童・青年期発達論	②			2						幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	生徒・進路指導論	②					2				生徒指導の理論及び方法，進路指導の理論及び方法	
	教育相談	②					2				教育相談	
	総合的な学習構成論	②						2			教育課程の意義及び編成の方法	
教 科 教 育 法	初等国語科教育法	②				2					教科（国語）の指導法	
	初等社会科教育法	②					2				教科（社会）の指導法	
	算数科教育法	②					2				教科（算数）の指導法	
	初等理科教育法	②				2					教科（理科）の指導法	
	生活科教育法	②				2					教科（生活）の指導法	
	初等音楽科教育法	②					2				教科（音楽）の指導法	
	図画工作科教育法	②					2				教科（図画工作）の指導法	
	初等体育科教育法	②					2				教科（体育）の指導法	
	初等家庭科教育法	②					2				教科（家庭）の指導法	
教 育 実 習	小学校教育実習入門	②	2								教育実習（事前指導）	
	小学校教育実習観察	1				○					教育実習（事前指導）	
	教育実習指導A	①					○				教育実習（事前指導）	
	小学校教育実習 I	⑤						○			教育実習（小学校本免用）	
教 職 実 践 演 習	教職実践演習（幼・小）	②								2	教職実践演習	

教科専門科目

○印は必修

区分	授 業 科 目	開 単 位 設 数	学 期 別 週 授 業 時 数								免 許 法 該 当 科 目	備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
教 科 専 門 科 目	初等国語	②			2						国語（書写を含む。）	
	算数	②		2							算数	
	初等社会	2	④	2							社会	
	初等理科	2		2							理科	
	生活	2				2					生活	
	初等家庭	2			2						家庭	
	初等音楽	2	④				2				音楽	
	図画工作	2					2				図画工作	
	初等体育	2				2					体育	

○印は必修

区 分	授 業 科 目	開 単 位 設 数	学 期 別 週 授 業 時 数								免 許 法 該 当 科 目	備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
	介護等体験事前指導	①			1						教科又は教職に関する科目	
	小学校外国語（英語）活動学習指導論	2						2		〃		
	小学校外国語（英語）活動実践演習	2				2				〃		
	言語障害教育総論	2					2			〃		
	L D等教育総論	2			2					〃		
	重複障害教育総論	2					2			〃		
教 												

